

「小正月行事火祭りについて調べ、体験する」

1. 教材化の目的

全国の各地で、1月14日を中心に小正月行事の火祭り（どんど焼き、とんど焼き、左義長、道祖神祭など地域によって様々な名称が使われている）が行われている。

この小正月行事の意味は、特定非営利法人地域資料デジタル化研究会の全国調査では、集落を単位として行われ、その地域の持続可能な発展を期するための住民総出の年中行事として行われている。

行事は、その一年間の農業の豊作（漁業なら大漁、商業なら商売繁盛など）、作物の病虫害防除、集落の防災、新婚家庭の子宝祈願、子どもの健全育成、家族の健康を一連の行事を通じて、祈願（予祝）し、その一年を幸せに過ごせるよう、集落の住民の絆を深める機会となっている。

このことは、道徳の教育過程において家庭・地域との強い連携のもとに、郷土愛を育み、さらに児童、生徒自らが地域の行事の中で現代課題を見つけ、自ら考えることを通して郷土の伝統に込められた祈りのすばらしさを知ることができ、郷土に誇りをもつことができる教材としての意義を有している。

また、小正月行事に込められた祈りは、（1）豊作、商売繁盛（2）防災、安全安心（3）子宝授与、子孫繁栄、健康維持—という地域集落の持続可能な発展に必要な3つの要素が込められている。

小正月行事では、さらにお小屋（どんど小屋）、やぐらづくりなどもの作り、門付けなどの芸能伝承体験などが行われ、社会に入っていくための実践力を身につけることができる。

それと共に明日への夢や希望を、集落の仲間とわかちあい、他人を思いやることのできる豊かな人間性が育てることができる。このことは学習指導要領がめざす「生きる力」そのものとなり、現在文部科学省が新たに企画しているESD（持続可能教育）のための地域教材とすることも可能である。

こうした小正月行事の全国47都道府県の実施状況は、NPO法人地域資料デジタル化研究会は、10年以上にわたる全国調査により、その全容が明らかになってきた。このことにより、児童生徒は行事の現場での体験学習とともに、全国の中での自分の住む地域の行事の意味づけに関する調べ学習や、幅広い視野からの郷土学習が可能になった。

※小正月行事どんど焼き全国調査 <http://www.digi-ken.org/~archive/koshogatu.html>

以上の観点から、小正月行事を道徳教育の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の地域教材とすることを企画した。また、社会科「総合的な学習の時間」にも展開できる

2. 指導計画案について

（1）単元の目標

（道徳、総合学習）「小正月行事どんど焼きについて体験し、調べたことを発表しよう」

○体験的な活動や調べ学習を通して小正月行事どんど焼きなどについて知り、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める

○自分たちが体験し、調べたことを、写真やビデオやポスターにまとめて発表することができる

(2) 単元の指導計画案

	主な学習活動	教師の指導のポイント
調べる・見通す	<p>☆小正月行事・どんど焼きについて知ろう (左義長、とんど焼き、サイノカミ、道祖神祭など、地域によって様々な名前があるので、地域に即す)</p> <p>具体的な活動</p> <p>☆父母、祖父母、近所の年寄りに小正月行事の話を聞く</p>	<p>★父母、祖父母に小正月行事のいわれや、歴史的背景について、インタビュー手法で聞き書きをさせる。</p> <p>★小正月行事は、一般的に、集落の中心的な広場(道祖神場など)に御神木建て、お小屋(オカリヤ)、やぐら作りから始まり、子どもたちの門付けの各戸訪問、獅子舞などの芸能、お小屋でのおこもり、祭礼の総仕上げとしての「どんど焼き火祭り」に至る、一連の行事が行われることに留意する</p> <p>★聞いたことをカードに書かせる。</p>
体験する	<p>☆小正月行事・どんど焼き(など)に参加してみよう。</p> <p>☆地域の小正月行事に参加し、わかったことを記録する。</p> <p>○小屋作りでは作業の内容、材料、道具、必要な技術(なた、鋸、鋏、藁の結束等)などの記録</p> <p>○門付け行事では、唱える呪文の内容、各家庭での行動とその意味</p> <p>○どんど焼きでは点火から終わるまでの手順。何か焼いて食べたか。</p> <p>○書き初めは持っていったか。</p> <p>○正月飾りの扱いについて</p> <p>○楽しかったこと、苦しかったこと</p> <p>○活動の内容をカメラやビデオで記録してみる</p>	<p>★全国的に、農村地域あるいは、郊外の住宅街でも、旧集落を単位として、青少年グループ育成事業として「小正月行事」を積極的に実施しているところがあるので、積極的に参加を促す。</p> <p>★小正月行事が廃れてしまった地域でも、正月飾りなどを焼却するために、神社などでどんど焼き等を実施しているので、親子で参加することができる。</p> <p>★地域の行事に参加、体験した内容を、iPad 教育を進めている学校では、写真や動画で記録させることにより、表現におけるデジタル教材とすることもできる。</p>
気づきを深め、再び調べる	<p>☆課題を見つけよう</p> <p>☆NPO法人地域資料デジタル化研究会の小正月行事全国調査表を使って、自分たちの地域の様子と、県内外の行事のようすを比較する。</p> <p>○グループに分かれて、課題を見つける</p> <p>○ここまでの学習や体験的な活動を通してわかったことや、もっと知りたいこと、調べたいことを決める。(もっと知りたいことの例)</p> <p>○どんど焼きの意味</p> <p>○門付けは何をしているのか</p> <p>○なぜ書き初めを燃やすか</p> <p>○繭玉だんごを焼いて食べることの意味</p> <p>○よその地域でも小正月行事をやっているのか</p> <p>○海外でも同じことをやっている国があるのか</p> <p>○小正月行事でとなえる「祈り」は何を求めているのか</p> <p>☆さらに調べ学習を深める</p> <p>○学校図書室や公共図書館に行って調べる</p> <p>○インターネットで調べてみる</p> <p>○見つけた課題をもとに、再び父母や祖父母、地域の大人にインタビューしてみる。</p>	<p>★小正月行事のなかで行われている個別のイベントには、深い意味や祈りがある。そのことに気がつくことによって、地域の先人の暮らしの苦労がわかり、また困難を乗り越えて、現在の地域の繁栄があることが理解ができれば、尊敬の気持ちも生まれ、道徳、社会など教科を超えた総合学習が成立するのではないか。</p> <p>★デジ研の全国調査表を使い、同じ県内、全国でどのように小正月行事が行われているか、比較することにより、自分たちの地域文化が1月14日前後に全国一斉に行われていることの不思議に気づく。</p> <p>★さまざまな情報収集の方法を見つけ、その使いこなしができる。再度のインタビューで最初気がつかなかった点について認識を深めることができる。</p>

発表する	<p>☆調べたことを発表する</p> <p>○グループごとに調べたことと、分かったことをポスターにまとめて表現する</p> <p>○発表会を行う</p> <p>☆ 同級生の発表に質問や意見を述べる</p>	<p>★ 友だちとの話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、新たな疑問を見つけたりすることができる。</p> <p>★表現は文字だけでなく、写真や図解などを入れて、見やすくわかりやすく伝える工夫ができる。</p>
ふりかえる	<p>☆学習活動をふりかえる</p> <p>○小正月行事を体験した活動や、調べ学習を振り返り、感想を書く</p>	<p>★自分たちの郷土や伝統のすばらしさに誇りを感じることができ、次は自分たちが郷土をどうしていったらよいかを考えるきっかけづくりとする。</p>

※小正月行事どんと焼き全国調査 <http://www.digi-ken.org/~archive/koshogatu.html>

郷土学習 学習カード	
年 組 氏名	
学習テーマ	自分たちの地域の小正月行事を調べる
インタビューの内容	インタビューの相手
(1)地域で小正月行事が行われているか (2)行われていれば、どんなことをしているか 等	(1)父、母、祖父母 (2)区長さん、組長さん
インタビューでわかったこと	
地域の小正月行事で体験したこと	
<input type="checkbox"/> 自分自らが体験したものづくりや芸能 <input type="checkbox"/> 神社などで行われる行事に参加したこと <input type="checkbox"/> 他地域での行事を見学したこと など	
参加体験してわかったこと	
課題をみつけて調べる	調べる方法
自分が特に関心を持ったことを中心に課題を見つける	図書館、インターネット、インタビュー 小正月行事全国調査
課題について調べてわかったこと	
感想	

第3章 道徳

第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

第2 内容 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

- (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。
- (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
- (10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 3 道徳の時間における指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。
 - (2) 職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かすなど、生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。
 - (3) 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。
 - (4) 自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること。
 - (5) 生徒の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえて、情報モラルに関する指導に留意すること。
- 4 道徳教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、学校の道徳教育の指導内容が生徒の日常生活に生かされるようにする必要がある。また、道徳の時間の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図るよう配慮する必要がある。
- 5 生徒の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

